

小学校 第1学年

A表現（2）ア B鑑賞（1）ア

題材名

いっぱいいっぱい、い〜っぱい！



実践校

大野町立北小学校

授業者 宗宮 のり子

実践時期 1学期

全2時間

つながりを生かす

- 「ひと」：はじめは個人の活動から始まり、並べたり伸ばしたりするうちに、次第に近くの仲間と作品をつなげるなど、互いの造形的な面白さを生かしながら協力して活動することを通して、自分の見方や感じ方を広げることができるようにする。
- 「もの」：普段の生活の中で扱った経験のある「割りばし」を用いた「色付き割りばし」を使い、どんな使い方（ならべる、積む、同じ色、繰り返しの色など）があるか、十分に試すことで、自分なりの形や色を見つけ出す姿を引き出したい。
- 「ちから」：単純で同じ形状のものを使って、色を変えたり規則性をもたせたりするなど、造形的な活動を思いつきやすいように構成した。また、途中で仲間の作品を見合うことで、新たに自分の見方を広げることできる。

題材の流れ**第1時 個人の活動**

赤・黄・緑・青の4色の色付き割りばしを示し、どんな形の作り方ができそうか、思い思いに考える。活動の広がりを見通して、体育館など広い場所で行った。

その後、大量の色付き割りばしを会場中央に置き、抱えたり並べたりするなど、十分に試す時間をとった。割りばしの棒状の形・4色の色を生かして、思い思いに並べたり形作ったりの活動を展開した。

ここからは違う色でつなげようかな。
家の形にしたよ。花火を打ち上げたよ。

電車が走るから、あっちへ曲がるよ、こっちへ曲がるよ。

割りばしが四角い棒だから、上にどんどん積み上げてみようかな。

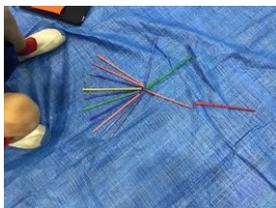
第2時 仲間とつなげる活動

今までは個人で楽しみながら活動していたが、次第に近くの友達と会話することで互いの色や形の面白さに気付き始める児童が出始めた。割りばしの使い方も、横に並べるような平面的なものだけでなく、上に積んだり小さな形を囲むように並べたりするなど、友達と工夫しながら、新しい形をつくってもよいことにした。完成後にみんなで鑑賞し、形作った児童がみんなにうれしそうに紹介する姿があった。

ポイント1 1年生の児童にとって見慣れた色にする。（4色程度。赤・黄・青・緑）
十分な数を用意し、思いついた形を何度でも試せるようにした。

近くの友達とつなげたよ。大きな枠の中に、友達の星があるよ。
作った形を見ていたら、お話を思いついたよ。

ポイント2 割りばしに着色する際は、発色を考えてアクリルガッシュを用いた。
「何に見えてくるかな」などと語りかけ、児童の自由な発想を促した。

作品例**授業を終えて**

体育館という広い場所での活動を保障することで、児童の動き（活動）がダイナミックになり、のびのびとした作品が生まれた。

個人の活動ではあったが、自然と近くの仲間の活動が視界に入ること、色の使い方や割りばしの置き方に広がりが見られた。